

あなたと議会を結ぶ情報誌

議会だより



はちね

令和5年8月
No.213

主な内容

- 6月定例会結果等……………P2～3
- 一般質問……………P4～8
- 委員会報告等……………P8～10
- 洞爺湖町訪問……………P10
- 小学校6年生議会傍聴……………P11

小学校6年生 議会傍聴



5月臨時会（5月11日）

専決処分（3件）承認2件、継続審査1件

第28号 令和4年度箱根町一般会計補正予算（専決第3号）…………… 補正額 1,383万4,000円
 ⇨除雪関係経費等について補正する。

第29号 令和4年度箱根町後期高齢者医療特別会計補正予算（専決第1号）… 補正額 247万8,000円

第30号 令和5年度箱根町一般会計補正予算（専決第1号）…………… 補正額 1億500万円

⇨環境センターの運転停止に伴う可燃ごみの外部処理費用を補正する。

※所管の総務企画観光常任委員会に閉会中の継続審査となりました。

補正予算（1件）可決

第31号 令和5年度箱根町一般会計補正予算（第1号）

補正額 1億2,107万1,000円

主な内容

- ① 特別支援給付金給付事業…1,103万4,000円
- ② 緊急支援給付金給付事業…5,498万5,000円
- ③ 子育て世帯生活支援特別給付金給付事業…434万3,000円
- ④ 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業…5,070万9,000円

6月定例会（6月9日～6月20日）

議決件数（12件）

専決処分（1件）承認

第30号 令和5年度箱根町一般会計補正予算（専決第1号）…………… 補正額 1億500万円

⇨閉会中の継続審査として付託されていたもので、採決の結果、全会一致により承認された。

条例改正（2件）可決

第32号 箱根町町税条例の一部を改正する条例の制定について

第33号 箱根町火災予防条例の一部を改正する条例の制定について

補正予算（1件）可決

第34号 令和5年度箱根町一般会計補正予算（第2号）

補正額 3億9,795万8,000円

主な内容

- ① 電子計算処理推進事業追加…46万2,000円
- ② 集会所等整備事業追加…120万円
- ③ 子育て世帯応援給付金給付事業…772万9,000円
- ④ 带状疱疹ワクチン接種事業…50万円
- ⑤ 省エネ家電買替え促進事業…650万円
- ⑥ ごみ処理経常経費追加…1億1,287万7,000円
- ⑦ 清掃第1プラント施設維持管理事業追加…2億6,400万円

工事請負契約の締結（5件）可決

第35・36・37・38・42号 工事請負契約の締結について

箱根湿生花園整備事業 管理棟改修工事……………	契約金額：8,129万円
森のふれあい館整備事業 空調設備改修工事……………	契約金額：1億1,202万8,400円
町営住宅整備事業 前田町営住宅外壁及び屋上改修工事……………	契約金額：6,795万8,000円
消防情報機器等整備事業 消防指令システム設備更新工事……………	契約金額：2億6,840万円
清掃第1プラント施設維持管理事業 清掃第1プラント施設補修工事……………	契約金額：2億5,850万円

物件供給契約の締結（1件）可決

第39号 物件供給契約の締結について

消防車両整備事業 消防ポンプ自動車（第11分団）購入…………… 契約金額：2,563万円

町道路線の廃止(1件)可決

教育福祉環境常任委員会に付託

第40号 町道路線の廃止について…町道(箱92号線)としての現況がないため廃止された。

人事案件(1件)

第41号 固定資産評価審査委員会委員の選任について

塩川 嘉昭 さん(仙石原在住)(再任)

報告(5件)

第1号 令和4年度箱根町一般会計予算繰越明許費の繰越しについて

繰越額 2,384万4,422円

内 訳

- ① 子育て世代包括支援事業…307万4,000円
② 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業…1,077万5,728円
③ ごみ処理広域化推進事業…361万9,000円
④ 消防車両整備事業…637万5,694円

第2号 令和4年度箱根町水道事業会計予算の繰越しについて

繰越額 959万2,000円

内 訳

- ① 鷹ノ巣配水池場内配管改修工事…959万2,000円

第3号 令和4年度箱根町公共下水道事業会計予算継続費の逡次繰越しについて

繰越額 2億円

内 訳

- ① 防ヶ沢ポンプ場機械電気設備改築工事委託…1億円
② 樹木園ポンプ場電気設備改築工事委託…1億円

第4号 令和4年度箱根町公共下水道事業会計予算の繰越しについて

繰越額 1億4,193万8,000円

内 訳

- ① 第2号公共下水道管渠更生工事(第9工区)…533万8,000円
② 処理場ポンプ場ストックマネジメント計画策定委託…2,600万円
③ 仙石原浄水センター汚泥管理棟・沈砂池ポンプ棟耐震化設計委託…6,000万円
④ 強羅橋ポンプ場汚水ポンプ更新工事…275万円
⑤ 仙石原浄水センター汚泥焼却炉等機械設備整備工事…4,785万円

第5号 公益財団法人箱根町文化・スポーツ財団経営状況の報告について

財団の事業報告及び令和4年度決算、5年度予算等について町から報告を受けた。

議会議事案件

継続審査

議案第58号 箱根町議会議員の適正定数に係る調査に関する決議について

※議会議員適正定数調査特別委員会に付託されていましたが、引き続き継続審査となりました。

陳情第1号 箱根町をきれいにする条例改正(景観破壊行為に行政代執行を可能とする) 陳情

※所管の教育福祉環境常任委員会に付託され、閉会中の継続審査となりました。

議員別議案賛否一覧(賛否等が分かれた議案のみ賛否状況を掲載しています)

Table with 13 columns: 議案番号, 議案名, 議決結果, 山田和江, 鈴木美貴, 勝俣陽二, 佐藤章子, 川口延明, 勝俣剛一, 村野由紀子, 勝俣泰彦, 稲葉親太郎, 遠藤秀則, 折橋尚道, 沖津弘幸, 山田成宣

※ ○:賛成 ×:反対 欠:欠席 -:議長は採決に参加しません。

6月定例会では、町政全般へ8人の議員が、13項目にわたる一般質問を行いました。質問者及び質問項目は、下の表のとおりです。原稿については質問議員が作成しています。なお、掲載にあたっては紙面の都合上、質問内容、回答共に、抜粋したものととなっておりますので、ご了承ください。

質問者	質問項目	ページ
川口 延明	・足柄幹線林道（通称＝宮城野林道）の一般車両通行に対する考え方について	4
折橋 尚道	・町内の空き家の現状と対策及び空き家を有効的に活用する方策	5
勝保 陽二	・箱根町における出生数の減少問題について	
佐藤 章子	・移住・定住促進問題について ・DX化への展望について	6
村野由紀子	・仙石原交差点周辺まちづくり事業について ・学校教育について	
山田 和江	・介護保険料の引き下げと高齢者が安心して暮らせる箱根町を ・雪害対策について	7
鈴木 美貴	・オーバーツーリズム問題について ・災害対策について ・学校教育について	
稲葉親太郎	・定住促進及び人口減少対策について	
稲葉親太郎	・定住促進及び人口減少対策について	8

町の考え方を問う！

一

般

質

問



※ **Q** は議員の質問、 **A** は町側の回答です。

道路渋滞を回避するために宮城野林道の通行は

町 … 道路渋滞は承知しているので、解決策を探りたい

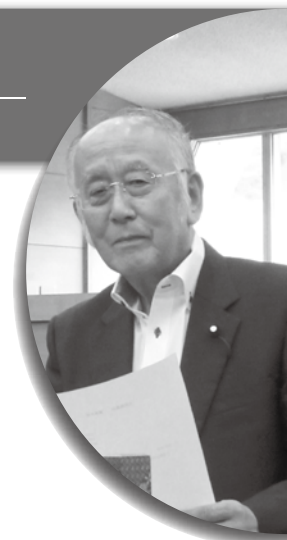
町では、箱根湯本駅周辺を始めとした慢性的な交通渋滞を緩和するため、宮城野林道は重要な役割を担っていると考えているので、管理する県に対して舗装や落石防護柵の整備などによる更なる安全性の担保や冬期における通行止め期間の短縮を要望している。なお、



交通渋滞は町民の方々への生活や本町の基幹産業である観光業に直結する課題と考えているので、県に対する要望を継続していきます。

Q 国道1号線と箱根新宮城野林道の一般車両通行について尽力を願いたい。

A 町長 林道は主として林業を営む方々の利用を目的とした道路であり、通常はその他の一般利用を目的としていないが、宮城野林道は、町民の方々にも通勤などで多く利用していると認識している。また、近年では観光客の方にも抜け道として知られており、他県ナンバーの車も通行するようになったとの声も聞く。



かわぐち
川口 延明
のぶあき
議員

要望に対して県からは、パトロールを随時実施し、路面補修などの維持管理を行うことで安全性の確保に努めること、冬期の通行止め期間を活用して改良工事を実施することで、年間の通行止め期間が短くなるよう努めるとの回答をいただいている。

町内の空家の現状と対策及び空家の有効活用

町…民間、地域、行政と協働・連携して空き家対策を推進

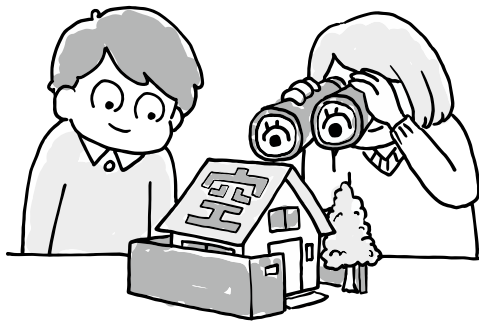


折橋 尚道 議員

Q 空家問題は深刻で、人口減少や都市部への人口集中により、空き家の数は増加し続けている。空家は、景観や生活環境を損なうだけでなく、災害や防犯のリスクを高める。平成26年に制定された空家に関する法律が本年改正され、所有者の責務強化や空家の活用拡大、管理の確保、特定空家の除却等に関する措置が定められている。この法律は、令和5年12月9日までに施行される予定であり、町としても具体的な対策に着手することが求められているが、見解は。

A 町長 空家問題は人口減少や都市部への人口集中により深刻化し、取り残された空家は景観や生活環境、災害や防犯のリスクに影響する。空家対策の法律は平成26年に制定され、令和5年に改正された法律に

は、所有者の責務強化や空家の活用拡大、管理の確保、特定空家の除却等が規定されている。町では空き家の実態調査や空家バンク制度、リフォーム補助等を実施してきた。また、京都市の非居住住宅利活用促進税の動向に注目している。今後とも空家バンクの充実と一歩進めた対策を民間、地域、行政と協働・連携して推進する。



箱根町における出生数の減少問題

町…行政と地域で様々に試行錯誤していく



勝俣 陽二 議員

Q 箱根町の令和2年の合計特殊出生率(※)が0.49まで落ち込み、令和2年度、3年度の出生数が共に29人という危機的な数字となっているが、この現在の町の状況に対して、町の「持続可能なまちづくり」及び消滅可能性都市として指摘を受けているという観点から、町長は、町の現状をどのように考えられているのか。見解を伺う。

A 町長 少子化は、我が国全体の課題であり、当町の出生数が大きく減少している現状については非常に危惧しているところであり、様々な担い手の発掘や育成、多世代の交流などによる地域コミュニティの強化と再構築を図ることが重要である。このような状況を踏まえながら、今後さらに事業所や自治体の枠にとらわれないことなく町の

活性化を図っていくことが必要である。

Q 現在の町の危機的な出生数及び合計特殊出生率を考えた場合、このような現状では、数十年後の箱根町の存続が危ぶまれるが、町長は、今後この問題に対して、どのような対策を掲げていかれるのか。見解を伺う。

A 町長 人口減少や少子化の対策には、「特效薬」といったものがないのが現状であり、行政と地域で様々に試行錯誤していく必要があると考えている。



※出生率とは、人口千人に対する出生数の割合。
※合計特殊出生率とは、15〜49歳までの女子の年齢別出生率を合計したものである。

箱根町人口増加に向けた移住・定住促進問題の取り組みは

町… 官民連携での事業を実施し定住促進している



佐藤 さとう
あきこ
議員

Q 箱根トリアルステイの概要は。

A 町長 移住希望の方の不安の払しょくや箱根をより理解していただくために実際に箱根生活を体験していただき、先輩移住者との交流会等で仕事、保育、教育の相談も行っている。

Q 令和元年以降は、仙石原地域の空き家を滞在施設として移住者を中心とした民間支援団体に運営を委託し、官民連携でより効果が上がるように取り組んでいきたくないと考えている。

A 町長 現在、体験日数や施設数の関係で目標値である18組には達成していないが、移住あっせん件数20件、若者世帯を対象とした住宅取得等への助成については年間5件という目標値を上廻る件数に達し

ている。



Q お試し移住体験者の中から「移住を前向きに検討したい」とのご回答をいただいているが、希望する空き家物件が不足しており、それも含めて1件でも多く移住につなげていきたいと考えている。

A 町長 移住後の問題についての把握とその解決策は。

Q 後、買い物や医療・教育などに不便さを感じ将来的な不安はあっても住み心地が悪いという声は聞いていない。

A 町長 移住された方と地域の方の相互理解を高めるとともに、地域に溶け込めるよう、橋渡しのサポートをしつかり果たして行きたい。

仙石原交差点周辺のバスターミナル計画は

町… 小田急グループからの提案が発端である、事業化の再考を促す



村野 むらの
ゆきこ
議員

Q バスターミナル計画は交差点改良工事を先行すると言われるが、バス利用者の乗降待ち渋滞は現在と変わらないと思われる。また、旧仙石原保育園跡地をそのままにするのも望ましくないと思うが、その点の考えは。

A 都市整備課長 現在の計画は、バスターミナルの整備を前提とした内容となっている。バスベイ（※）は計画されていないため、バスターミナルが整備されるまで暫定的なバスベイの設置を含めて、どのような対策が可能か県や地権者の方々と協議したい。バスターミナル計画は、乗り換え利便性の向上といった面でも、地域にとってプラスの面が多い計画。現時点では、旧仙石原保育園跡地をバスターミナルとして利用するのが望ましい。

Q 町民からもバスターミナルの整備を求める声が上がっている。

A 町長 愛川町のバスセンターは、町でバスセンターを整備しバスの事業者に貸出したのが発端となり日常的な管理はバス事業者、維持管理は原則愛川町が行っている。当町でもバスターミナルの整備を主導し調査・検討をしては。

Q 都市整備課長 バスターミナル計画は、多くの人に望まれており、地域の課題である交通安全の向上や渋滞解消等に大きな効果が期待できると考える。改めて地域の声を小田急グループへ伝え、事業化の再考を促す。

※バスベイとは、バス停のある場所の歩道に切れ込みを入れてバスが停車できるように設けられたスペースのこと

次期介護保険料は引き下げを

町… 保険料基準額を軽減できるよう検討する



やまだ
山田 和江 議員

A 町長 介護保険料については給付費や被保

べきだ。
る。来年度介護保険料の見直しは予定されている。現在町の介護保険料は、第5段階の基準額で、横浜市、川崎市に次いで県内で三番目に高い6,200円となっている。県の25年度の保険料の見込み額は、6,971円で今より771円も高くなる。高齢者の命綱の年金は安倍政権の10年間で6・8%も減らされ続けた。今年は1・9%の引き上げとなったが電気代や物価高騰の中で焼け石に水だ。わが党のアンケートには多くの方が保険料の引き下げを求めている。高齢者の負担をはるかに超えて上昇を続ける介護保険料をどうするかは介護保険制度の最大の課題だ。当町の高齢者の生活を守るためにも引き下げるべきだ。



A 町長 県の方策であり、やむを得ないと考えている。

Q 宮城野の「箱根老人ホーム」の民間への譲渡について伺う。
A 福祉部長 今後給付費や被保険者の伸びなどどと被保険者数から保険料はどのくらいになるか算定されるので統合的に基金の取り崩しも含めて判断していく。

Q 来年度介護保険料の見直しは予定されている。現在町の介護保険料は、第5段階の基準額で、横浜市、川崎市に次いで県内で三番目に高い6,200円となっている。県の25年度の保険料の見込み額は、6,971円で今より771円も高くなる。高齢者の命綱の年金は安倍政権の10年間で6・8%も減らされ続けた。今年は1・9%の引き上げとなったが電気代や物価高騰の中で焼け石に水だ。わが党のアンケートには多くの方が保険料の引き下げを求めている。高齢者の負担をはるかに超えて上昇を続ける介護保険料をどうするかは介護保険制度の最大の課題だ。当町の高齢者の生活を守るためにも引き下げるべきだ。

Q 基金の残高が1億1,271万円あるとのことだが、この基金をどの程度取り崩して負担軽減を図るのか。
A 福祉部長 今後給付費や被保険者の伸びなどどと被保険者数から保険料はどのくらいになるか算定されるので統合的に基金の取り崩しも含めて判断していく。

オーバーツーリズム問題は

町… 県内唯一の国立公園として、ポイ捨て等抑制の啓発や対策を検討



すずき
鈴木 美貴 議員

Q 通学上の安全対策に
関連し、住宅地域等を「ゾーン30」として区域設定

を検討していく。
町内を散策する方の中には、ゴミを放置する方がおり、放置されたゴミの中にはたばこの吸い殻もまじっており、火災につながる恐れから町に対策を望む声があるが、その対策は。

A 町長 ゴミ箱の設置が少ないとのこと意見をいただくが、ゴミが捨てられやすい場所に設置することで、ゴミがゴミを誘発する
場合が多かったことから、過去に設置してあった物を撤去した経緯があり、現在は各地域の各種団体のご協力で清掃を実施し、ゴミがゴミを誘発しないようにし、衛生的なまちづくりを目指すため、ポイ捨て等の抑制に向けた啓発や対策について検討していく。

A 学校教育課長 「ゾーン30」については、通学路の合同点検において、対策方法の1つとして提案してみたい。



定住化促進及び人口減少対策は

町…後期基本計画に位置づけた関連施策について、組織横断的に進め、一歩ずつしっかりと取り組む



稲葉 親太郎 議員

Q 年齢3区分別人口割合を見ると、令和2年度は老年人口の割合が38・4%、生産年齢人口は55・3%とアクションプランに記されており、地域コミュニティの希薄化とともに空き家問題が顕著となるなど、地域社会の活力の低下が懸念される等、周辺集落を含め地域全体を維持する上で大きな課題があるが、この事案についての町の見解は。

A 町長 令和2年度における本町と日本全国の比較では、老年人口は9・4ポイント高く、生産年齢人口は4・1ポイント低くなっていることから本町における急激な高齢化を伴う人口減少はさらに進んでいるということを認識している。地域コミュニティとは日々の日常生活の観点から、住民生活の基盤であると考えられているが、地域コミュニティ

力や地域の絆の減衰により、自治会や単独の団体だけでは地域の諸活動が維持できなくなりつつあり、これまで培ってきた地域の団体や地域コミュニティを今一度見つめ直し、地域コミュニティの再生を図るべく、各種団体の垣根を越えた新しい枠組みや取り組みについてワークショップなどでディスカッションを行っていき、顕在化する課題を克服できるような地域コミュニティの構築を行い住みよい地域の形成を目指す。



行財政改革調査特別委員会 中間報告

令和5年5月11日 第6回 行財政改革調査特別委員会を開催しました。
4月の全員協議会において、町側より示された行財政アクションプラン及び箱根町公共施設再編整備計画について確認し、その後令和6年以降の財源不足の対応について協議しました。
委員からは、行財政アクションプランと公共施設の再編はそれぞれ分野が違うので、委員会を分けて検討すべきという意見と議員数が少ないので全員でやるべきという意見もあり、今後の方針は委員長、副委員長に一任されました。
しかしながら財源不足は、超過課税で維持されている状況であり、今後も委員会において慎重に討議して町側へ提言していきます。

委員長 勝俣 剛一



箱根町議会議員適正定数調査特別委員会 中間報告

本議案は、令和4年9月定例会におきまして「箱根町議会議員適正定数調査特別委員会」が設置され付託となり、継続審査となっているものであります。特別委員会は4月17日に会議を開き、議員の適正定数について、協議を行ったものであります。さらに協議を深めていく必要があることから引き続き継続審査となりました。
また、7月6日にも会議を開き、その結果、賛成多数により議員定数を2名減の12名とすべきものと委員会決定したものであり、施行期日は、令和7年9月に行われる一般選挙から施行することとしております。なお、条例改正については、9月定例会に上程し、採決される予定です。

委員長 稲葉親太郎

議員派遣報告 議長・副議長研修会

令和5年5月23日東京国際フォーラムにおいて、町村議会議長・副議長研修会が開催され、当町より山田成宣議長、勝俣剛一副議長と事務局長3名が出席いたしました。

講師として大正大学社会学部教授 江藤俊昭氏、NPO法人ブロードバンドスクール協会理事 若宮正子氏、朝日新聞社コンテンツ編成本部次長 三島あずさ氏をお招きし「町村議会の課題と今後の概要」「住民のためのデジタル活用法」「地方議会とハラスメント」等について講演されました。全国から約1800名が参加され、終始熱気のある研修会でありました。

内容についても議会の直面する議題であり、今後の議会活動に大いに参考になりました。

議会の更なる向上に努めてまいります。

副議長 勝俣 剛一



令和5年度 町村議会議長・副議長研修会

議員派遣報告 正副委員長事務局長研修会

令和5年5月19日、神奈川県町村議会議長会の正副委員長及び事務局長研修会に参加致しました。研修は、横浜の神奈川県民ホールで午後2時から県内14町村から90名が参加し実施されました。当町の出席者は、議会運営委員会の折橋委員長、川口副委員長、総務企画観光常任委員会の稲葉委員長、村野副委員長、教育福祉環境常任委員会委員長の遠藤と岩田議会事務局長の6名です。研修内容は、ポストコロナ時代の地域、経済、自治を考えると題して、講師に元総務大臣・元鳥取県知事で、現在は大正大学にて地域構想研究所所長を務める片山善博氏が講演をされました。内容は①ポストコロナ社会を窺う。②人口減少への対応。③地域の生産性を上げる・DX推進など。④GX/地域環境問題への対応。⑤地域資源環境型経済の視点について。など、端的にポイントを絞りわかりやすく講演をされ、講演終了後の質疑応答では、議員のなり手不足について、3、6、9、12月に定例会を開催するのは、農家と兼業する議員が多い名残で、農閑期に議員との兼業がやり易かったためであり、現代では勤め人が多く、この会期に合理性はなく、「なり手不足」は当然のことで、

議員報酬について考えるより、勤め人でも参加できる仕組みにする必要がある。通年議会、休日議会、定例日方式など工夫できる余地はいくらでもあると講話がありました。今回の研修では、示唆に富むご教示をいただきましたので、今後の議会活動の参考とさせていただきます。と思っています。

教育福祉環境常任委員会

委員長 遠藤 秀則



教育福祉環境常任委員会 報告

6月定例会で議案第40号町道路線の廃止について、当委員会に付託されたものであり、去る6月13日に現地調査を行うとともに、町当局の出席を求め会議を開催し、慎重に審査を行った。本路線は町道としての現況はなく、廃止により生ずる支障はないものと判断されることから、採決の結果全員一致により、原案のとおり可決すべきものと決定した。

また、同じく6月定例会で当委員会に付託された、陳情第1号箱根町をきれいにする条例改正の陳情は、6月13日に町当局の出席のもと現地視察を行い、現状においては所有者・周りの環境問題等、課題について継続して調査研究をするため、閉会中の継続審査となった。

委員長 遠藤 秀則



お玉ヶ池地区有林 ボランティア植栽

6月6日、「箱根の森」と命名されているお玉ヶ池町有林において、広葉樹500本の植栽が行われました。

当日は、15団体53名の方がイロハモミジ、ヒメシャラ、ヤマボウシの植栽作業を行い、水源かん養機能に着目した豊かな森林づくり事業について理解を深めました。



姉妹都市親善交流事業 北海道洞爺湖町親善訪問

令和5年7月2日から4日にかけて、姉妹都市親善交流事業として洞爺湖町を訪問しました。来年、姉妹都市提携60周年を迎える洞爺湖町のみなさんと親交を深めました。



洞爺湖町議会のみなさんとの集合写真



親善訪問歓迎会



洞爺産業まつりに参加
まつりのメインイベント「野菜まき」には、地元の方々が大勢参加していました。



議場見学
インターネット中継の設備を確認しました。

小学校6年生

地方自治学習・議会見学



議場（仙小）



事前学習&オリエンテーション



正副議長室（森小）



質疑応答（仙小）



応接室（湯小）

町内小学校6年生の「地方自治学習・議会見学」が6月定例会開催中の15日に実施されました。真剣な様子で議会傍聴に臨んでいました。

傍聴に来てくれた6年生の感想

湯本小学校

箱根の議員さんたちは、いろいろな問題を解決しようとしていて格好いいなと思いました。町のために働く職員が382人もいて、さらに消防関係の人が約4分の1だと知ってびっくりしました。

仙石原小学校

本会議では、会議がスムーズになるような工夫がされていたし、議員さんは事前に法律を調べたり、データを集めたりしていて準備力がすごいと思いました。町長室の椅子に座って、多分人生に一度の経験をさせてもらってとても嬉しかったです。

恵明学園

本会議を見学したとき、空き家の話をしていました。町長さんが質問に答えているとき難しい言葉をたくさん使っていて、聞いている人もすごいと思いました。

箱根の森小学校

議長の横にタイマーがあって、限られた時間の中で意見をまとめる必要があるんだなと思いました。議員控室などには、過去の資料などもたくさんあって、何かあったときにすぐに調べられるようにしているのだと思いました。私も箱根町のために自分なりに何かできることをしていきたいです。

江戸時代の石橋、「芦川橋」をご存じですか？



恩賜箱根公園内（箱根関所隣接）にある石橋で橋長2.5m、幅2mほどの小さな橋。歴史的な価値としては江戸時代、東海道に名橋と言われた石橋が三ヶ所ありました。そのうちの一つの石橋です。もとは箱根町箱根の駒形神社前の芦川にかかっていたが昭和30年代頃からの増加する交通量から橋を守るため現在地で保存されている。

（投稿者） 広報広聴委員会

川口 延明 委員

広報広聴委員会 2年間を振り返って



広報広聴委員会委員長を務め、貴重な経験と多くの学びを得ることができました。この職務は、地域の発展や住民の利益を守るために重要な役割が求められる責任ある立場であり、二年間努めさせていただき光栄に感じております。コロナ禍により、「町民との意見交換会」が開催できず残念ではありましたが、議会モニターの方々からも意見をいただきながら、広報活動の重要性を再認識し、今後も広報広聴活動に尽力してまいります。

広報広聴委員会

委員長 勝俣 泰彦

9月定例会開催日（予定）

本会議 8月24日（木）、9月1日（金）、5日（火）、6日（水）、10月3日（火）

決算特別委員会 9月11日（月）、12日（火）、20日（水）

※8月18日（金）開催の議会運営委員会において決定いたしますので、変更となる場合があります。

詳しくは、議会事務局（☎85-9570）までお問い合わせいただくか、町議会ホームページの議会カレンダーをご覧ください。

広報広聴委員会

委員長 勝俣 泰彦
副委員長 川口 延明

委員 勝俣 陽二
勝俣 剛一
稲葉 親太
遠藤 秀則